

岩手県金融経済概況（2018年9月）

1. 概況

県内経済は、緩やかな回復基調を続けている。

最終需要の動きをみると、個人消費は底堅く推移している。公共投資は高水準ながらも減少している。住宅投資は持ち直している。設備投資は増加している。

生産は、緩やかに持ち直している。

雇用・所得環境をみると、労働需給は引き締まった状況が続いている。

消費者物価（除く生鮮食品）は、21ヵ月連続で前年を上回った。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、底堅く推移している。

百貨店売上高（全店舗ベース；2018年8月）は、2ヵ月連続で前年を下回った（前年比△7.2%）。

スーパー売上高（全店舗ベース；2018年8月）は、前年並みとなった（前年比△0.0%）。

新車登録・届出台数（乗用車＜含む軽＞；2018年9月）も、前年並みとなった（前年比△0.0%）。

(2) 建設投資（公共投資、住宅投資、設備投資）

公共工事請負金額（2018年9月）は、10ヵ月連続で前年を下回った（前年比△36.9%）。

新設住宅着工戸数（2018年8月）は、6ヵ月連続で前年を上回った（前年

比+8.9%)。

—— 持家（前年比+1.1%）は2ヵ月連続で、貸家（同+13.1%）は6ヵ月連続で前年を上回った。分譲（同+14.6%）も4ヵ月振りに前年を上回った。

民間設備投資（短観ベース；2018年度計画）は、前年を上回る計画（前年比+4.5%）となっている。

—— 製造業は、生産用機械や自動車関連で新製品対応投資等による上方修正の動きがみられるなど、前年を3割方上回る一方、非製造業は、卸・小売や対個人サービスでの投資一服等から前年を2割方下回る見通しとなっており、全産業では前年を若干上回る計画。

県内の官民建設工事全体の出来高総計（2018年8月）は、8ヵ月連続で前年を下回った（前年比△3.2%）。

3. 生産動向

生産は、緩やかに持ち直している。

鉱工業生産指数（季節調整値；2018年7月）は、2ヵ月振りに前月を上回った（前月比+1.2%）。

—— 主要業種別にみると、電子部品・デバイス、窯業・土石製品、金属製品が上昇し、生産用機械、情報通信機械、鉄鋼が低下した。

なお、四半期の動きをみると、2018/4～6月は2期振りに前期比増となった（2017/7～9月：前期比△2.5%、10～12月：同+3.3%、2018/1～3月：同△4.8%、4～6月：同+5.9%）。

4. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、労働需給は引き締まった状況が続いている。

有効求人倍率（季節調整値；2018年8月）は、1.49倍と高水準を維持している（2013年5月以降64ヵ月連続で1.00倍以上で推移＜過去最長＞）。

雇用保険被保険者数（民間企業中心の全数調査；2018年8月）は、前年を上回った（前年比+0.5%；2012年3月以降78ヵ月連続で増加）。

雇用者所得（県内合計値；2018年7月）は、名目賃金指数（前年比+2.3%）が前年を上回ったものの、常用雇用指数（同△3.2%）が前年を下回ったため、7ヵ月連続で前年を下回った（同△0.9%）。

5. 物価

消費者物価指数（除く生鮮食品；2018年9月）は、光熱・水道および交通・通信の上昇等を主因に21ヵ月連続で前年を上回った（前年比+1.4%）。

6. 企業倒産

企業倒産（2018年9月）は、2件、376百万円（前年同月；5件、1,739百万円）と落ち着いた動き。

7. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金・貸出（2018年8月）は、預金は前年を下回った一方、貸出は前年を上回った。貸出約定平均金利は前月に比べて低下した。

以 上

本件に関する問い合わせ先：

日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） <http://www3.boj.or.jp/morioka/>